



世界の中で君を見つけた

世界の中で君を見つけた

こんなに広い世界の中で君を見つけた

気が付いたら君のことを好きになっていた

世界中のどこを探しても

君の代わりなんて見つからない

ほかの人のことなんて考えられない

君が僕に人を愛する心を思い出させてくれた

この恋が実らぬ恋でもきっと後悔しない

誰よりも壊れやすい僕の心

もし僕の心が壊れても傷痕に君が残るだろう

古傷がうずくたびに君のことを思い出すことができる

僕と君の進むべき道が違ったとしても

君が幸せになればそれでいい

君が僕以外の人を選んだとしても

僕は君のことを一生忘れずにいるから

もし君が僕と付き合ってくれたとしても

君を幸せにしてあげる自信なんてないよ

だから僕のことを逆に支えてほしい

二人で少しずつでも幸せになれるように

地球の未来

地球の未来

多分この星は昔のように戻れないんだね

二酸化炭素は増え オゾン層は破壊される

数十年後の地球はどうなっているだろう

もう想像もつかない世界がそこに待っている

最近僕も人と会うのが怖くなってきたんだ

まるでこの星の未来と同じように

自分の未来さえ信じられない気がする

数十年後、この星に生まれてよかったと思えるだろうか

頭の中だけで考えてもどうにもならない

生物がまともに暮らしていける星になっているだろうか

自分たち人間さえも危ういのだから

強すぎる紫外線 暖かすぎる冬

作物さえ無事に育つかわからない

もう飽食の時代も終わりだろうか

人間が生き残れるだけでもましだろう

そんな時代が近づいているのだろう

今のうちにパーティーでも開いて楽しもう

未来の地球がどうなっているかも知らずに

過去はきれいな思い出に

過去はきれいな思い出に

過去を振り返るより

未来を語ろう

昔の恋なんて忘れてしまおう

現在と未来に会う人を大切にしよう

過去はきれいな思い出だけ残せばいい

過去を悔やんでばかりいると

つらい思いをするだけだよ

恋も一回きりじゃないし

何度でもチャンスはめぐってくるから

もっと素敵な人に出会えたとき

過去の恋はきっと輝く思い出になるよ

いつまでも落ち込んでばかりいないで

これからの出会いを喜びに変えていこう

今がつらい思い出ばかりだとしても

自分の心さえ変われば素敵な人生に変わる

つらい思いをしても

明日は希望に変わるように

自分自身に言い聞かせながら生きていこう

きっと素晴らしい出会いが待っているよ

そして明日を迎えるのが毎日楽しくなるから

心の傷

君は暗い目をして僕を見ていた

僕と同じような目をしていた

多分今までつらい目にあってきたんだね

僕も同じだからなんとなくわかるんだ

でも君は話しかけても何も語ろうとはしない

きっと僕以上につらい目にあってきたんだね

できれば君を助けてあげたい

でも君は人から愛されることを拒んでいる

僕も人から愛されることを恐れている

君となら分かり合えと思ったけど

心の傷が深すぎて僕じゃダメなんだね

誰か優しくしてくれる人はいるの

家族とか恋人とか

家族にも心を閉ざしている僕と同じかな

その眼は僕と同じで世の中を恨んでいる

君は悪くないよ

きっと周りの大人たちが悪かったんだ

僕も君も心に傷を負ったまま生きていくんだね

また手紙を送るよ

また手紙を送るよ

君が淋しそうにしている夢を見たよ

君は最近どうしているのだろう

夢の通り淋しそうにしていなければいいけど

また手紙を送るよ

さりげなく君がどうしているのか訊いてみよう

僕の連絡先は書いておいたから

いつでも暇があったら返事を送ってきて

君が昔より変わっていたとしても

君が今どうしているのか知りたいから

君ともう一度会いたいから

君が今淋しくてたまらないのなら

君の話したいことを全部聴いてあげるよ

そして僕でよかったら君を抱きしめてあげる

僕も昔より大人になったと思うから

今なら君のことを守ってあげられると思うんだ

君のために生きたい

君のために生きたい

僕は君にとって必要な存在なのだろうか

君は僕にとって必要なのだろうか

もし必要なら迷わず僕のことを受け止めてほしい

ただ愛し合ってるだけではだめなのだろうか

僕は誰からも愛されていない気がする

君にとって僕はどんな存在なのだろうか

君には他に必要な人がいるかもしれない

そうしたら僕じゃなくてもいいのだろう

僕は誰からも大切な存在だと言われたことがない

君はいろんな人たちから愛されているのだろう

そんな僕が君を支えてあげることができるだろうか

君は誰かに助けてほしいとき

まず誰を思い浮かべるだろうか

その誰かが僕であってほしい

僕は世の中の役に立っているのだろうか

せめて君の役には立ちたい

誰かのために生きてみたい

それ誰かが君であってほしい

神と人間

人間の文明文化を非難する人々が少なくない

よくあるのが医学や薬を否定する人たちだ

宗教家や霊能者に多く見られる

この人たちはどれだけ医学や薬のことを知っているのだろう

よく知ったうえで非難をするのなら話を聞くけど

ろくに知らないで非難する人の意見なら聞く必要はない

宗教家によくあるのが世界が一旦破壊されて

神の国が地上に造られるという話だ

人間が神様さえ拝んでいれば

人間が何もしなくても

神が建物やインフラ整備でもしてくれるとでも言いたいのだろうか

地上を建設できるのは人間のみである

それを忘れて神にお願いするのは失礼なことだ

神には感謝し

願い事を成就するよう努力する誓いを立てること

それさえ心がけていれば神を拜んでもいい

何もかも努力をしないで神に頼るのは

神を自分のために利用しようとしているだけだ

特に人間がここまで文化を発展させてきたのは

日々神に感謝し

人間が努力を積み重ねてきた結果なのだ

犠牲と保護

人間も他の動物も他の生物を犠牲にしながら生きている

生物には動物も植物も含まれる

食前に「いただきます」と言う

他の生物の命をいただくという感謝の言葉

私は言葉で言うこともあるし

心の中で「いただきます」と言うこともある

私はできれば何も食べたくない

食べれば食べるだけ他の生物を犠牲にするからだ

しかし生きている間は何か食べなければならない

人間以外の命を犠牲にする

それが生きるということだ

そして人間も他の生物も生かされている

人間は他の生物を犠牲にするだけでなく

保護活動もしている

そしてペットとして家族同様に扱われる生物もいる

生物は人間に飼われる方がいいのか

自然の中で生き生きとしている方がいいのか

それだけはわからない

原爆

原爆

1945年、広島と長崎

リトルボーイとファットマン

二つの原子力爆弾が落とされた

数十万人の命が奪われた

日本では原爆は作られていないが

平和利用の名のもと

原子力発電所が各地に造られた

2011年、原発事故は起こった

原発は絶対安全だという言葉

誰もが疑うことなく信じ込んでいた

大地にばらまかれた放射性物質

いったいいつ住民は故郷へ帰れるのだろう

現在も広島と長崎の声を無視して

原爆の開発を進める国がある

日本も核武装すべきだと言う人もいる

もし日本が核兵器を持てば

今までの広島と長崎の声は嘘になる

そうすれば各国が競って核兵器開発を進めるだろう

そうなればいずれは核戦争はまた起こるかもしれない

核戦争が起こったら日本にも責任はないのだろうか

大切なこと

大切なこと

何か悪いことが起こるたびに誰かのせいにする

誰かのせいにしてしまえば心が楽になるから

それは自分が正義でいられるから

自分自身を微塵も悪人だとは自覚していないのだろう

本当に善人も悪人もいるのだろうか

いるとすればどこで善と悪を分けるのだろうか

この世に必要なない人間なんているのだろうか

人の命が奪われるたびに悲しむ人がどこかにいる

命が消えるたびに人類の歴史に刻まれる

人類の歴史って殺し合いの歴史なのだろうか

愛し合える人がいたからこそ今まで人類は続いてこれた

愛し合うことが当たり前すぎて幸せに気づかない

平凡な日々を送っていてもこの世のどこかで消えていく命がある

新しい命が生まれてもどこかで奪われる命がある

命を守りたい

この世の全ての人類の命を

心の中でひそかにそう願っている

誰も命を奪われることがないような愛の世界

みんな必要だから命があるのだから

恨みや憎しみを誰かにぶつけるより

愛を誰かに与えることがこの世を救うことになるだろう

ゆうすいの詩集 4

<http://p.booklog.jp/book/58734>

著者：さくらじまゆうすい

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/dpmpct5160/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/58734>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/58734>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ